

# 遠藤周作学会 会報

第 17 号

2022 年 11 月 15 日

発行 遠藤周作学会

代表 山根道公

二〇二二年度遠藤周作学会・全国大会

総会報告

事務局より

## ◇第十六回二〇二二年度遠藤周作学会・全国大会開催

第十六回二〇二二年度遠藤周作学会・全国大会は、二〇二二年九月十日（土）に、Zoom ミーティングを用いたオンラインにて開催された。

役員会は前日九日（金）十七時からオンラインにて行われた。十日は十時に本学会代表、山根道公氏による開会の辞が述べられた。まず、以下のプログラムの通り、ブリガム・ヤング大学名誉教授のヴァン・C・ゲッセル氏、作家で元「三田文学」編集長の加藤宗哉氏、ノートルダム清心女子大学の山根道公氏によるシンポジウムが行われ、続いて、二本の研究発表が行われた。その後、総会が行われた。大会進行役は国際日本文化研究センターの増田斎氏及び、九州産業大学の池田静香が担当した。

## プログラム

### 【シンポジウム】

「遠藤文学と戦争・信仰

―未発表戯曲「善人たち」を中心に―

ブリガム・ヤング大学名誉教授

ヴァン・C・ゲッセル

作家／元「三田文学」編集長 加藤 宗哉

司会（兼）ノートルダム清心女子大学

山根 道公

### 【研究発表】

① 歴史史料から考察する『侍』の〈侍〉

上智大学キリスト教文化研究所 香川 雅子

司会 京都外国語大学 長濱 拓磨

② 遠藤周作とヘンリ・ナウエンにおける

牧会者像についての一考察

日本基督教団清瀬旭が丘教会 猪野 正道  
司会 清泉女学院大学 古橋 昌尚

## 【総会】

総会は、オンライン開催のため議長を選出せず、事務局長の古浦修子氏が報告・計画の説明を行うことをもって、開かれた。まず、二〇二一年度事業報告がなされた。内容は次のとおり。

◆ 第十五回二〇二一年度遠藤周作学会・全国大会を Zoom ミーティングによるオンラインにて開催。会員四十九名の参加があった。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』第十五号発行。第十五号は五篇の論稿、二篇の新刊紹介、一篇の書評、増田斎氏による研究展望を収録。編集の都合上、若干発行が遅れているが、準備でき次第発送する。

◆ 会員数は、二〇二二年九月時点で一〇八名。  
◆ 年会費長期未納者への今後の対応として、年会費の未納が二年を超えた場合、そこで一旦退会扱いとし(※入金が困難な海外会員については別途対応)、再入会を希望する場合は新たに会

費を納入し再入会の手続きをとること、この新ルールを設ける代わりに、過年度の長期未納分は追って請求しないこと、未納分が入金された場合の機関誌の送付は前号と今号の二冊までとすることが提案され、承認された。

◆ 古浦修子氏により二〇二一年度の会計報告がなされ、承認された。

◆ 続いて、事務局より二〇二一年度事業計画が示された。内容は次のとおり。

◆ 第十六回二〇二一年度遠藤周作学会・全国大会を Zoom ミーティングを用いてオンライン開催。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』次号(第十六号)は、今回の発表者の原稿を掲載予定。募集要項等はこれまで通り。併せて、生誕一〇〇周年企画を掲載予定。

◆ 遠藤周作生誕一〇〇周年企画として、二〇二三年三月二十七日前後に国際学术交流会の開催を企画中。

◆ 二〇二三年度の大会は、二〇二三年九月九日(土)に昭和女子大学にて開催予定。

◆ 連携担当役員今井真理氏より、遠藤周作生誕一

〇〇周年記念イベントとして、長崎市遠藤周作文学館・町田市民文学館ことばらんど・周作クラブでさまざまな記念イベントがあること、単行本未収録のエッセイ集などの刊行、音楽座のミュージカル「泣かないで」(原作『わたし』が棄てた・女)の公演が予定されていることが案内された。(※決定次第、HPで案内予定)

最後に遠藤周作学会副代表の笛木美佳氏の閉会の辞をもって全国大会の日程を終了した。その後開催されたオンライン交流会(ブレイクアウトセッション方式)では新入会員の挨拶がなされた後、四〇五名程度のグループに分かれて会員の近況報告、遠藤周作生誕一〇〇周年企画案に対する意見交換が行われた。対面による大会開催がかなわない中、久々に打ち解けた雰囲気、遠藤文学に対する思いを語る時間を持つことができ、終始和やかな会となった。

### ◇ 事務局より

▼第十六回遠藤周作学会・全国大会は、オンライン開催となりました。オンラインの利点を活かし、国内外から

会員五十名、聴講者十七名にご参加いただくことができ、大変盛会でした。オンライン開催のためにご尽力くださいました、大会運営委員、事前リハーサルにご協力くださいましたご発題・ご発表・司会の方々に、改めて御礼申し上げます。

▼今回の大会の研究発表は、二名の発表者が遠藤作品について、関連史料との実証的な検証をなした作品論、心理学をも視野に入れた神学の立場から論じ、新たな視点や解釈を提示する刺激的な発表の場となりました。充実した内容が、機関誌にまとめられますことを楽しみにしています。

また、研究発表に先立つシンポジウムでは、未発表戯曲「善人たち」(新潮二〇二二・三)の作品構造や創作秘話について、ヴァン・C・ゲッセル氏、加藤宗哉氏、山根道公氏に語っていただきました。生前、特に近い関係にあった方々から、作品の通奏低音となっている「Over The Rainbow」の響き、主人公の名前が「阿曾」になった経緯や作品の背後にみえる兄・正介の影響などについて、高い知見に基づきながらもユーモア溢れる語り口でお話いただきました。また、学会員へ向けて、「善人たち」が発表されなかった理由を説明して欲しい」と

の期待も語られ、質疑応答でも話題となりました。シンポジウムは、次年度には遠藤周作生誕一〇〇周年を迎える大会の冒頭を飾るにふさわしい実りあるものでした。

▼機関誌『遠藤周作研究』第十六号の投稿論文を募集します。投稿申し込みは、十二月末までに事務局へお願いいたします。機関誌の最後にある投稿規定をご覧のうえ、会員の方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。

▼『遠藤周作研究』第十六号、三月開催予定の国際学術交流会の生誕一〇〇周年企画については、いただいた企画案を役員会にて検討し、詳細はメールにてご連絡いたします。

▼次回の研究発表の申込みは来年五月末日締切りです。三月に改めて募集のお知らせをいたします。――

▼次回の大会は、副代表笛木美佳氏が所属される東京都の昭和女子大学にて行われます。周知のとおり、昭和女子大学のある世田谷は、評論家として世に出るきっかけとなった「神々と神と」『四季』一九四七・十二）などを書いた出発期の遠藤が暮らした場所で、近隣の世田谷文学館には、初期の貴重な資料も收藏されています。遠藤周作生誕一〇〇周年となる来年度は開催校である昭

和女子大学に多くの学会員が集い、充実した研究発表がなされ、盛会となりますことを期待します。

▼最後に学会員の方々にご協力のお願いがあります。機関誌の「遠藤周作参考文献目録及び研究展望」は、引き続き増田斎氏が担当されますので、遠藤周作に関する会員の方々の論文はもちろん、入手できた参考文献についての情報を、増田氏に直接お知らせください。(E-mail: [tsuki.masuda1117@gmail.com](mailto:tsuki.masuda1117@gmail.com))。また、これまでの参考文献目録について遺漏のある場合も、ご連絡をお願いします。

(文責 会報担当 池田静香)

### 遠藤周作学会 事務局

〒807-8586

福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1

九州女子大学 古浦修子研究室内

TEL: 093(693)3348

E-mail: [soymilk@titan.ocn.ne.jp](mailto:soymilk@titan.ocn.ne.jp)